

令和元年度札幌市食育推進会議

議 事 録

日 時：2019年8月6日（火）午後1時30分開会
場 所：WEST19（札幌市保健所）2階 大会議室

1. 開 会

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） 定刻となりましたので、ただいまから令和元年度札幌市食育推進会議を開催させていただきます。

会長による議事進行までの間、進行を務めさせていただきます事務局の保健所食育・健康管理担当課長の榊原と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の委員の出席状況ですが、お手元の委員名簿にございますとおり、委員21名のうち、16名の委員の皆様にご出席をいただいております。札幌市食育推進会議条例第7条第2項の規定により、過半数の委員が出席してございますので、当会議は成立していることをご報告させていただきます。

それでは、これよりお手元の会議次第に沿って進行いたしますが、会議の終了時刻は3時30分頃をめぐりましてしておりますので、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

なお、本会議につきましては、札幌市情報公開条例の規定により、市民へ公開することを原則といたしますので、会議録を札幌市のホームページ上で公表いたします。つきましては、会議内容を録音させていただきます。また、報道機関1社が取材に入っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、お手元の資料の確認をさせていただきます。

本日の資料といたしましては、事前に送付させていただいております会議次第、名簿、本会議の条例、附属機関等の要綱、資料1から資料11となります。

また、計画本書は、新しい委員の皆様にはお配りしておりますが、もしお持ちでない委員がいらっしゃいましたらお申しつけいただければと思います。

不足している資料がございましたら、お申しつけください。

2. 挨拶

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） それでは、開会に当たりまして、札幌市保健福祉局医務監の矢野からご挨拶を申し上げます。

○矢野保健福祉局医務監 ただいまご紹介にありました札幌市保健福祉局医務監の矢野でございます。

本日は、ご多忙の中、そして、大変暑い中、この会議のためにご出席いただきまして、まことにありがとうございます。また、日ごろより札幌市の保健福祉行政にご理解とご協力をいただきまして、感謝申し上げます。

この会議は、札幌市の条例に基づく附属機関として、食育の推進に関する札幌市のさまざまな行政施策について幅広く総合的にご審議をいただく場として開催しております。

札幌市では、平成17年に制定されました食育基本法に基づき、平成20年から5年ごとに計画を策定し、今年度は第3次札幌市食育推進計画がスタートして2年目となっております。

この計画では、食を大切にすることを育みますという基本理念のもと、健やかで心豊かな食生活の実現、食の循環や環境・安全を意識した食生活、食文化の継承と食育推進体制の整備の三つを基本目標に掲げ、食への感謝の心を持ち、心も体も健やかで、豊かな食生活を送ることを目指しております。

特に、健やかで心豊かな食生活の実現につきましては、後ほど議事にもございますが、札幌市健康づくり基本計画「健康さっぽろ21（第二次）」の基本要素の一つである栄養・食生活にも位置づけている重要な分野でございます。市民の皆さんに、バランスのよい食事や運動など、健康的な生活についてあわせて啓発しているところです。そのために、多くの関係者の方々と協働して総合的に進めていく必要があるものでございますので、ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

本日は、まず、事務局からこれまでの事業報告をさせていただきますが、皆様には、札幌市の食育の推進のために忌憚のないご意見をいただきますとともに、今後とも札幌市の食育の推進のために一層のお力添えを賜りますことをお願い申し上げます。

なお、本日は、皆様のお手元に、ペットボトルではなく、缶のお茶が置かれているのにお気づきかと思えます。今、プラスチックの環境問題が取り上げられておりまして、リサイクル可能な缶のお茶を皆様にご提供させていただきましたことを補足させていただきます。

それでは、本日は、活発なご議論をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

3. 出席委員紹介

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） 続きまして、会議次第3、委員の皆様をご紹介いたします。

お名前をお呼びいたしますので、その場でお立ちいただきたいと思えます。

時間の都合もございますので、大変申しわけございませんが、お名前のご紹介のみとさせていただきます。

なお、所属等につきましては委員名簿にてご確認ください。

石井美枝子委員でございます。

石塚祐江委員でございます。

市野美砂子委員でございます。

大江紋委員でございます。

大江廣嗣委員でございます。

太田真理委員は、まだお見えになっていません。

岡村暁子委員でございます。

菊地和美委員でございます。

高橋一行委員でございます。

谷江彩也子委員でございます。

成田雅智委員でございます。

西根裕治委員でございます。

藤田範彦委員でございます。

水岡路代委員でございます。

山口伸矢委員でございます。

山部秀子委員でございます。

続きまして、本日、業務の都合によりご欠席されている委員につきましてご報告いたします。

川瀬委員、斉藤委員、行方委員、柳澤委員、勇崎委員、以上、5名の委員が欠席でございます。

皆様への委嘱についてですが、あらかじめ机の上に委嘱状を用意させていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

また、本日は、皆様方の後ろの席になりますが、札幌市の市民文化局、子ども未来局、経済観光局、環境局、教育委員会、保健福祉局の食育関係課の職員が出席しております。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、まことに恐縮ではございますが、医務監は、この後、公務のため、ここで退席させていただきます。

〔矢野保健福祉局医務監は退席〕

4. 札幌市食育推進会議の概要説明

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） それでは、会議次第4の札幌市食育推進会議について、事務局から説明させていただきます。

○事務局（中澤食育・健康管理担当係長） 事務局の保健所食育・健康管理担当係長の中澤からご説明させていただきます。

お手元の資料でございます札幌市食育推進会議条例をごらんください。

会議の概要につきまして、主なところをご説明いたします。

推進会議の設置につきましては、第1条に、食育基本法第33条第1項の規定に基づき、札幌市食育推進会議を置くことになっております。

第2条では、推進会議の役割といたしまして、食育推進計画の作成とその実施を推進すること、また、食育の推進に関しまして、重要事項の審議と施策の実施を推進することとしております。

第4条では、委員の任期を2年と定めております。

今回の委員の皆様につきましては、先ほどの委嘱状のとおり、令和3年7月31日までとなっております。

続きまして、第6条では、推進会議に会長を置き、委員の互選によって定めるとありま

すので、後ほど会長をお決めいただきます。

また、第6条第3項には、会長の職務代理人、あらかじめ会長が指名する委員がその職務を代理するとありますので、これも後ほど会長からご指名いただくことになります。

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） ただいま太田真理委員がいらっしやいましたので、ご紹介させていただきます。

○太田委員 遅くなりまして、済みません。

5. 議 事

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） それでは、これから会議次第5の議事に入ります。

初めに、会長及び職務代理人の選任についてです。

先ほども説明がありましたが、この推進会議条例の第6条では会長は委員の互選により選出するということになっておりますが、いかがいたしましょうか。

○西根委員 事務局一任でいかがでしょうか。

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） 今、事務局一任というご意見がありましたが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） それでは、ご意見のとおり事務局から提案させていただきます。

事務局案といたしましては、天使大学の教授であり、公益社団法人北海道栄養士会会長の山部委員にお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） ありがとうございます。

それでは、山部委員にお願いしたいと思います。

山部委員におかれましては、正面の議長席へ移動をお願いいたします。

〔会長は、所定の席へ着く〕

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） それでは、山部会長、一言、ご挨拶をお願いいたします。

○山部会長 北海道栄養士会の山部と申します。よろしく願いいたします。

こういう大役をさせていただく回数は余り多くないので、不慣れなところもたくさんあると思いますが、皆様のご協力のもとで札幌市の食育推進を次世代へとつなげていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） ありがとうございます。

続きまして、会長より職務代理人の指名をお願いしたいと思います。

○山部会長 それでは、職務代理者として柳澤緑委員を指名させていただきたいと思いません。

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） ありがとうございます。

ただいまご指名をいただきましたので、職務代理者として、北海道技術・家庭科教育研究会の会長で、北辰中学校の校長先生でいらっしゃいます柳澤委員にお願いしたいと思えます。

なお、柳澤委員は、校長会の研修会と重なりまして、本日は欠席となっております。

これからの議事進行につきましては、食育推進会議条例第7条に基づき、山部会長にお願いいたします。

なお、議長及び委員の皆様をお願いします。これからのご発言につきまして、先ほども申しましたように、録音等をさせていただいておりますので、マイクを回してご発言をお願いしたいと思います。ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、山部会長、よろしくお願いいたします。

○山部会長 それでは、進めさせていただきたいと思えます。ご協力をよろしくお願いいたします。

まず、議題（2）のアの平成30年度食育事業報告についてです。

事務局からご報告をお願いいたします。

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） それでは、ご報告をさせていただきます。

お手元の第3次札幌市食育推進計画の冊子の28ページをごらんください。

現在の第3次の計画におきましては、先ほどもご挨拶で申し上げましたとおり、食を通して豊かな人間性を育みますを新たな基本理念とし、基本目標として三つの目標を掲げております。

一つは、共食の重要性、朝食摂取、生活習慣病の予防と重症化予防など、健康寿命の延伸につながる食育を進めること、二つ目に、食品ロスの削減、食の安全、農業との触れ合いを意識した食生活、三つ目に、伝統的な食文化の継承・実践、市民、関係機関、団体、企業と連携して進めていくことを挙げております。

続きまして、冊子の30ページをごらんください。

こちらには、九つの重点取組とそれに紐づく19の主な施策をお示ししております。それぞれの目標について取り組んでいく要点をまとめておりまして、こちらの九つの重点と紐づく主な施策をもとに第3次計画を進めてまいります。

次に、事前にお送りしております資料1の第3次札幌市食育推進計画進捗状況一覧というA3判の横長の資料をごらんください。

ここからは、これに基づき、第3次計画の昨年度の進捗状況のご報告をさせていただきます。

この資料は、第3次食育推進計画に基づき、平成30年度の取り組みについて記載したものです。

資料の記載方法といたしましては、左から、縦書きの先ほどご説明いたしました基本目標、重点取組、整理番号、施策体系番号、本書の掲載ページ、各名称、区分、強化内容、取り組み内容、活動指標、平成30年度の実績値、評価、担当している部及び課となっております。

目標が達成されたものには二重丸(◎)をつけています。目標に向かって推移しているものには丸(○)、変化なし、または、目標から遠ざかっているものについては三角(△)をつけております。

それでは、この資料に基づきまして、九つの重点取組、それに基づく19の主な施策の事業評価から抜粋してお伝えしていきたいと思っております。

取り組み内容や活動指標につきましては、策定時から状況が変わり、一部変更しているものもありますので、ご了承いただきたいと思っております。

まず、1ページから3ページまでは、基本目標の一つである健やかで心豊かな食生活の実現に向けた取り組みについてです。

本書では、32ページからになります。

整理番号の1番から21番までは、重点取組の健康寿命の延伸につながる食育の推進となっております。朝食の摂取、減塩、野菜摂取など、望ましい食習慣、栄養バランスについて取り組んできております。

1ページの9番ですが、よくかんで食べることについて啓発を行いました。

こちらにつきましては、全課で実施しており、目標が達成されております。

また、1ページの整理番号の5番の手軽にできる朝食の普及・啓発、8番の栄養成分表示の活用、次のページの12番の主食・主菜・副菜を揃える食事の啓発、17番と18番の野菜摂取強化の取り組み、3ページの20番目の牛乳・乳製品に関する情報提供については、本書の計画の中で強化して行う取り組みとしております。

お手元にカラー版の資料をご用意しております。まず、資料2は「時短！簡単！朝ごはん！」、資料3は「知って役立つ！栄養成分表示」、資料4は「ママのきれいを応援します！コンビニ・お惣菜活用法」、資料5は、今月は野菜摂取強化月間ですので、「野菜レシピ」、資料6は、子どもが喜ぶ「おいしい♪楽しい♪野菜レシピ」となっております。昨年度は、これらを活用し、健康教室や乳幼児の健診など、必要に応じて、さまざまな機会において啓発を行ってきております。

戻りまして、2ページの14番の保育園や学校の給食を通した取り組みでは、教科、特別活動における食に関する指導の充実を図り、望ましい食習慣の形成に努めております。また、給食だよりの配付や給食試食会の実施、さらには、PTAと連携して保護者への啓発を図ってございまして、◎としております。

続きまして、3ページをごらんください。

整理番号22番から32番は、重点取組、若い世代を中心とした食育の推進についてです。

本書では、35ページからになります。

こちらは、第3次計画において新規や強化して取り組む事業が複数挙げられております。

取り組みが途中のために○や△が多い状況ですが、その中で、3ページの23番の大型スーパー等での健康的な食生活の普及啓発につきましては、昨年度、初めて実施いたしました。本日もご出席いただいております成田委員にもご協力をいただきまして、スーパーマーケットを会場として、資料7の「野菜を多くうす味で！」を活用し、事業を行ってきております。食育関連企業と協力し、市民に向けた栄養講話と試食を行っております。

次に、25番の高校生のための食生活指針についてですが、資料8の「食べてつくろう未来のジブン」という「高校生のための食生活指針」を作成いたしました。札幌市立、道立、私立の高校の校長先生や保健体育、家庭科の先生に委員をお願いし、検討委員会を開催して、この資料を作成しております。今年の4月に初めて市内の各高校1年生を対象に配付して、保健や家庭科の授業に取り入れていただくなど、活用をお願いしております。

なお、当初、この計画では、高校3年生に配付することになっていたのですが、食育推進会議の委員のご意見により、新1年生を対象に配付をすることになり、指標は変更させていただいております。

なお、今年度中に活用状況等のアンケートを行う予定です。

戻りまして、26番の妊婦訪問指導時の啓発についてですが、お手元の資料9の「妊婦さんの食生活のポイント」を作成しております。これも広告事業で作成しているのですが、初妊婦への家庭訪問のときに助産師に配付をしていただいているところです。

さらには、お手元の資料10の「お酒をのむ時の虎の巻」は、アルコールに関する情報提供として作っております。

22番の仮称・食育男子プロジェクトについては、これから実施する予定です。

続いて、3ページから5ページの上段の整理番号33番から45番は、多様な暮らしに対応した食育についてです。

33番から38番は、学校、保育園、幼稚園での食事のマナーや楽しく食事をする事の大切さを知ってもらうことなどに取り組んでいただき、◎となっております。

39番から43番は、コミュニケーションの場や共食の企画をふやす取り組みですが、第3次計画では、39番の共食の情報提供が新規事業となっております。情報提供につきましては、未実施の分もあり、△となっております。

また、44番から45番につきましては、昨年9月6日の地震の影響が大きく、市場見学会や消費拡大フェアも中止になりました。

次に、5ページから7ページまでは、基本目標2の食の循環や環境・安全を意識した食生活に向けた取り組みです。

本書では、41ページからになります。

46番から55番は、重点取組の環境に配慮した食生活の推進です。食べ残しや今年の5月に法制化されました食品ロスの削減についての取り組みです。

5ページの55番の新規の「2510（ニコッと）スマイル宴」は、◎です。資料に取り組みの内容が示されておりますが、宴会料理の食べ残しを減らすことを目的に、宴会などのときに、開始後25分と終了前10分間は、自分の席でしっかり食事を楽しもうという呼びかけをする取り組みです。

48番の環境を考えた取り組み、49番の生ごみの堆肥化を初め、50番のさっぽろ学校給食フードリサイクル事業でのリサイクル堆肥を使用した作物の提供は、全小・中学校で行われており、◎です。

続きまして、56番から75番は、重点取組の食の安全・安心の確保の推進に向けた取り組みです。こちらにつきましては、前計画からの継続事業で、目標に向けて取り組みを行っています。

60番の子どもGメン、61番の子ども向け手洗い指導など、子ども向けの体験型の取り組みが行われていることが挙げられており、◎です。

また、食品表示や安全な給食提供について、食の安全への関心や理解を深めていただくための事業も行われておりました。

続きまして、76番から85番は、重点取組の農業を身近に感じる都市環境の実現に向けた取り組みです。

77番の若い世代に対する農体験の啓発が新規事業でした。保育所の園児、小学生や若い世代に対しては、農業に触れ合う機会を増やしており、◎です。一方、農業ボランティアの育成やさっぽろとれたてっこの認証農家数の増については△が多い状況です。

7ページから10ページまでは、基本目標3の食文化の継承と食育推進体制の整備に向けた取り組みです。

87番から102番は、重点取組の食文化の継承と食環境整備で、88番の伝統的な食文化の啓発、101番の調理室等の情報提供が新規事業となっております。こちらは、ともに◎でした。

調理室等の情報提供につきましては、保健所ホームページに掲載しており、問い合わせのほか、調理室を貸し出ししているのので、載せてほしいというご依頼もありました。

この調理室の情報提供等は、食育推進会議の中でご意見をいただき、ホームページに掲載しているところです。

103番から108番は、重点取組のさっぽろ食スタイルの推進です。ずっと言い続けておりますが、なかなか耳なれない言葉だと思います。これは、栄養バランス、地産地消、環境に配慮した食生活を提案することです。こちらは、再掲が多く、さきにご説明したとおりとなっております。

109番から130番は、重点取組の地域における食育推進体制整備についてです。

116番の野菜の日、栄養の日、食育の日、130番の食育学生ボランティアの活動支援が新規事業となっております。毎月1日を「野菜の日」、4日を「栄養の日」、19日を「食育の日」として、給食だより等で啓発するなど、食生活を見直す機会を設けています。

こちらは担当課で実施しており、◎としております。

食育学生ボランティアの活動支援につきましては、今後取り組む予定のため、△です。

118番の給食施設等での指導・支援につきましては、保育所、幼稚園、学校、事業所等での給食を通して健康的な生活を送ることができるよう指導支援を行うこととし、125番の食生活改善推進員の活動の理解促進と養成につきましては強化事業で、本日まで出席いただいております市野委員が会長でいらっしゃいます食生活改善推進員協議会とともに進めており、平成30年度につきましては◎です。

以上、平成30年度の取り組みについてご報告させていただきました。

○山部会長 では、平成30年度の事業の取り組みについて、委員の皆様からご質問やご意見がございましたら挙手をお願いいたします。

○高橋委員 まず、第3次札幌食育推進計画進捗状況一覧の1番目の早寝・早起き・朝ごはん推進事業についてです。

評価が◎になっているのですが、啓発数3万8,203人の根拠というか、何かの講演会をやった出席者数など、何かあればご説明をいただければと思います。

食育推進計画の冊子の12ページに図8-2がありますが、平成23年度と28年度を比較するとむしろ少し減少しているように見えるのです。これが30年度でまた増加したという意味合いでよろしいでしょうか。

もう一点は、A3判の資料の9ページの113番に食育講演会開催についてです。

これも評価が◎になっているのですが、具体的には、一般市民に食に関する講演会を実施したということなんでしょうか。具体事例というか、大体どのぐらいの規模だったかがわかれば、お教えいただきたいと思います。

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） まず、113番の食育講演会開催についてです。

6月が食育月間でありまして、毎年、保健所において、一般市民を対象に、食育講演会を企画し、行っております。今年は約270余名が集まっております。今年は、食育サポート企業であり、健康さっぽろ21の推進に関する包括的連携協定締結企業でもあります札幌ヤクルト販売株式会社より、腸内フローラと健康ということに関し、ご講演いただきました。

次に、早寝・早起き・朝ごはんの推進事業の実績についてです。

各保健センターが中心に行っております健康教育の朝食指導や離乳期講習会、そのほかの母子を対象にした事業等での1年間の啓発人数となっております。

○高橋委員 今のご説明でわかりましたが、グラフで見ると、女性に限っては若干減少しているのです。ただ、総数では目標値を上回っているのです、評価が◎になっているという理解でよろしいでしょうか。

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） どちらのグラフですか。

○高橋委員 第3次札幌市食育推進計画の冊子の12ページの図8-2です。

それから、図9では、女性に限っては若干減っているように見えるということです。

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） こちらは平成28年の札幌市民の食生活の調査でして、数字のとり方が推進計画とは違っております。

○山部会長 ほかにございませんか。

○岡村委員 私の意見も聞きながら、短い時間で、また、調理の経験の少ないお母さんにも食事を作っていただけるよう、お母さん向けのコンビニのメニューの活用法の冊子を札幌市に作っていただきました。こちらはお母さんへということが目標ではありますが、実際にはお子さんも食べるのでいいのではないかとということがあったかと思えます。

しかし、札幌市小児科医会を通し、こちらを各小児科にも置いたところ、あくまでも個人のご意見になるかとは思いますが、ある先生から、札幌市として、いかに楽をするかというパンフレットを作って配るのはいかがなものかと思うから、そういう意見も上げておいてほしいという厳しいご意見がありました。私からは、そのとき、お母さん方はお忙しくて、真面目に一からご飯をつくるのはなかなか難しいのですと言ったのですが、中にはそういうご意見を持たれる方もいらっしゃるということをご意見として上げておこうかなと思いました。

私は、食事指導の際、働くお母さんともお話をしているのですが、ご飯を作っていられない人と作っていられない人の差がすごく激しいということは感じています。また、反応よく見てくれるお母さんもいるので、悪いものではないのではないかなと個人的には思っておりますが、そういうご意見の方もいらっしゃるということをお伝えしておきます。

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） ご意見は承りました。

このコンビニの活用術については、以前、岡村委員からご意見をいただいたもので、今回は第2弾として出させていただきました。

確かに、楽をしているのではないかという印象を持たれるかもしれませんが、いろいろなものを一からきちんとつくれるほうがいいとは思いますが、今、国の食育推進計画もそうですが、多様な生活に対応した食育を進めるということがありますし、ライフスタイルもさまざまです。ですから、これで全ていいというわけではないのですけれども、こうした一面も捉えながら啓発をしていけたらと思っております。

貴重なご意見をありがとうございました。

○山部会長 ほかにいかがでしょうか。

○石塚委員 食の安全のことでお尋ねします。

推進計画を見ると、食中毒など、衛生面のことが書かれているのですが、私は、食の安全と言うと、添加物や化学肥料を抑えることだと思っていたので、そこに少し温度差があるかなという印象です。また、今、高校生がエナジードリンクを飲んでますよね。あれは飲み過ぎると体にとっても害がありますが、すっきりするので、売られています。こうしたエナジードリンクの摂取の仕方、または、添加物について、食育推進計画ではちょっと薄

いのかなという印象を受けました。

食の安全・安心に関し、食中毒だけではない化学物質等についてはどのように考えてらっしゃるのかをお尋ねしたいと思います。

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） まず、安全面とえば、食中毒が中心になると思います。そして、食品添加物についてですが、今、国の基準の中でそれを含んだ食品が製造されているということもありますし、いろいろなご意見や研究もありますので、食育全体の推進計画の中で取り上げていくことはどうなのかなと考えております。

次に、エナジードリンクについてです。

本日配付させていただきました高校生の食生活指針の中で、カフェインのとり過ぎに気をつけようということで、エナジードリンクについても記載させていただいております。これは、高校生の食生活指針の検討委員会の中で、高校の先生から、高校生の実態として、そういう飲み物のとり方があるので、ぜひ掲載してほしいというご意見があったことによるものです。

○石塚委員 このパンフレットを見て、そうだなとは思っていたのですが、今後、食育推進計画に食の安全という部分で入れることを検討することは可能なのでしょうか。

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） どういう指標を決め、取り組んでいくかは、第4次計画策定の際の食育推進会議の中で委員の皆様にご検討いただくことはできると思います。

○山部会長 ほかにいかがでしょうか。

○谷江委員 計画の中に減塩については入っているのですが、糖分摂取の過多は問題になっていないのでしょうか。先ほどのエナジードリンクのこともそうですが、1本とるだけでかなりの砂糖をとることになると聞いたことがあるのです。そういうものはどこかに入っているのでしょうか。

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） 塩分については、エビデンスも含め、健康寿命の延伸や生活習慣病の発症に大きく影響していますし、国も塩分のとり過ぎには注意しましょうという方針を掲げていますので、載せているところです。しかし、カルシウムをとろう、何をとりとうと、細かく一つ一つとなってくると、計画の中で取り扱うのは大変です。

そこで、例えば、バランスのとれた食事をとりましょうといった中で、糖分やカルシウム、ビタミンのとり方について啓発していくことを考えています。

○山部会長 ほかにいかがでしょうか。

○水岡委員 保育園からです。

先ほどのご意見と同じなのですが、コンビニ・お惣菜活用法を園に出したところ、食にすごくこだわる保護者のおばあちゃんがいらして、コンビニの添加物が気になる、私はコンビニのものを食べさせていないのに、札幌市としてこういうものを出すようになったのだねという話をしていました。

私も、忙しいお母さんのために、手軽に1品を足せるようにできるためのレシピができたのだなと思ってはいましたが、そういうふうと考えられる方もいらっしゃいましたということをご報告させていただきます。

○山部会長 もしほかにご意見等ありましたら、あと一つぐらいで終わらせていただきたいと思いますが、ございますでしょうか。

○石井委員 くどい話になってしまうのですが、添加物については私もすごく気になりました。日本の食は、世界中を見ても安全で、諸外国から旅行に来た方も、日本の食べ物は安全だから買っていく、食べていくという話を聞いて、すごく誇りに思っていたのですが、日本の基準がとても甘いと聞いたのです。こちらでそういうことはおわかりでしょうか。

今後、札幌市として、道に働きかけをして、さらに国へ持って行って、もう少し基準を厳しくしてもらおう方向で考えていくことはできるかどうか、お答えください。

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） 先ほど申しましたように、国で基準を決めて、安全性を確認した上での添加物になっております。

これについてはさまざまな研究があるのですが、その上でこのようになっているところではある。ある添加物を捉え、それはどうかと持っていくのは難しいかなと思います。

今回、関係課が来ていますので、お願いします。

○事務局（保健所食の安全推進課 川西調整担当係長） 我々は、食品衛生監視員として、日々、食中毒予防を中心に、市内の施設等の監視指導を行っているのですが、やはり、国で決めている基準があり、それに従い、監視指導を行っているところです。

○石井委員 つまり、どうにもならないということですね。

○山部会長 どうにもならないということはないと思います。

○石井委員 小さな働きかけから変えていかなければいけないと思うのです。

これからは、長寿社会に向け、皆さんが健康に生活していくためにと思うのです。添加物については私もずっと気になっていたものですし、ほかの委員からもご意見が出たので、お話しさせていただきました。

○山部会長 それでは、この件に関しましては、質疑を終了させていただきたいと思いますが、食育関係課から補足説明などはございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○山部会長 では、次の議題に移ります。

健康さっぽろ21（第二次）中間評価と今後の推進についてです。

説明をお願いいたします。

○事務局（中澤食育・健康管理担当係長） それでは、スクリーンをごらんください。

お手元の一番最後に冊子でつづっております、資料11「札幌市健康づくり基本計画「健康さっぽろ21（第二次）」中間評価と今後の推進について」をまとめたものをスライドでご説明いたします。

先ほどのものは札幌市の食育についてまとめたものでしたが、こちらは札幌市健康づく

り基本計画「健康さっぽろ21」についてです。食育推進計画につきましては、食育全体と環境、農業、食の安全がプラスされたものですが、こちらは健康づくりに特化したものとなります。

初めに、札幌市の健康づくりの課題です。

まず、健康日本21、健康さっぽろ21ができた背景をご説明申し上げます。

日本では、高齢化が進み、生活習慣病の人が増え、寝たきりや認知症などの人も非常に増えました。そのため、個人と社会の負担が大きくなり、深刻な社会問題となり、生活習慣病の改善や健康の増進、疾病を予防するにはどうしたらいいのかを考えることとなりました。

今までは、成人病と言っており、大人になったらかかる病気と言っていたものですが、これはどうやら大人になったらかかるものではなく、生活習慣によるものということで、2次予防から1次予防に重点的にやっていきたいと思いますと変わっていきました。

よく火事に例えられるのですが、2次予防というのはぼやの段階で火を消しましょうということです。しかし、1次予防というのは火事にならないためにどうしたらいいかを考えることです。

この1次予防に重点対策を置き、健康日本21、そして、その市町村版として、2002年に健康さっぽろ21が策定されました。その後、今の健康さっぽろ21（第二次）が策定されております。

計画期間は、2014年から2023年の10年間という長いスパンですが、2018年に中間評価を行いました。その結果がお手元の資料です。

1ページですが、全体の目標には、健康寿命の延伸、健康格差の縮小、健やかに産み育てるの三つを定めております。

それでは、札幌市の健康を取り巻く現状はどのようなものなのか。

お手元の概要版の1ページに人口と高齢化率の図がありますが、2025年には65歳以上の方の割合が30.5%になると予測されております。

皆様は、平均寿命、健康寿命という言葉聞いたことがあるかと思いますが、左側が平成22年、右側が27年です。平均寿命は伸びておりましたが、国も北海道も札幌市も同じような年齢です。ところが、健康寿命という自立して生活できている年数は、札幌市が道や国よりも非常に短いという結果が出ました。また、男性は伸びたのですが、女性が短くなってしまったということで、取り組みには相反するような結果となっております。

死因別については、札幌市では、平成28年はがんでお亡くなりになる方が多く、順に心疾患、肺炎、脳血管疾患ということで、生活習慣にかかわるものが多く占めているところでは。

次に、分野別の中間評価についてですが、大きく8個に分かれております。

まず、栄養と食生活部門についてです。

男性は40歳代、50歳代の肥満の割合が多く、また、20歳代の女性は痩せが増加し

ていることがわかりました。そこで、計画期間の後半に向けては、40歳代や50歳代の男性に適切な食事量をとってもらい、あるいは、野菜を多くし、減塩の食事等の啓発をすること、また、その働きかけの際には、企業と連携し、いろいろな角度から働く世代の健康の増進を目指すほか、40代や50代になる前の世代の方への健康的な食習慣の啓発に努めてまいりましょうという目標を定めました。

次に、二つ目の身体活動・運動についてです。

運動習慣がある方というのは、男女ともに60歳代、70歳代の方が多かったところです。また、20歳代から50歳代の方は運動習慣が余りなく、特に女性は多くないという結果が出ております。そこで、日常生活の中で体を動かす仕組みや環境の整備が必要とまとめました。

休養については、20歳代から50歳代で、睡眠により疲労がとれない、ストレスを感じている人の割合が増加しているという結果で、飲酒については、統計的に評価できなかったということもあり、適正な飲酒量の啓発を引き続き行うこととしております。

そして、喫煙についてです。

けさの新聞にも掲載されておりましたが、成人の喫煙率は低下しておりますが、全国と比較して割合は高く、特に女性は高いということで、啓発が必要であり、望まない受動喫煙をなくすということも進めてまいります。

次に、歯と口腔の健康についてです。

虫歯のない3歳児、12歳児の割合は目標に向かって推移しているのですが、12歳児につきましても、全国の数字と比べて低いため、お子さんの虫歯予防については生活習慣の基礎となる幼児期から今後も継続して取り組むとともに、計画に基づいて取り組みを推進することをうたっております。

次に、健康行動についてです。

ここでは主になんがん検診の受診率を調べております。男性は目標を達成しているのですが、女性特有のがん検診では目標値には届いておらず、こちらの啓発、体制整備も必要なのではないかということをおうたっております。

親子の健康も柱になっておりますが、妊娠期から育児期までの切れ目のない支援の充実を図ることとしておりますが、生活習慣病の発症予防と重症化予防に向けて取り組みましょうということなのです。

最後のまとめですが、働く世代の健康づくりの取り組みの強化についてです。

課題は、肥満と運動習慣とストレスと飲酒ということで、20歳代から50歳代に対し、健康診断を受けましょう、日常的に体を動かしましょうなど、食生活や生活習慣の正しい知識の啓発を強化いたします。

女性の健康づくりの推進については、健康寿命の短縮、ストレスや疲労、運動習慣等の啓発のほか、日常生活の中で取り組めるような健康づくりの仕組みや取り組みが必要としております。

このほか、児童虐待予防の取り組みの推進についてですが、市民、地域、企業、関連企業・団体と一緒に進めてまいります。

健康づくりに関してはこのようにまとめましたので、参考までにお知らせいたしました。

○山部会長 それでは、令和元年度の食育事業計画についても続けてお話しただいてよろしいですか。

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） 今の健康さっぽろ21の概要版にもありますように、昨年度は栄養・食生活の分野では目標を達成していないものがすごく多く見られました。また、先ほどかいつまんで報告させていただいたものについてですが、◎や○がついたものについては引き続き強化しながら進めていくとともに、△がついた項目については、再検討し、◎が増えるよう取り組み、多くの市民の皆様へ啓発していくなど、関係機関と委員の皆様が所属している団体のご協力も得ながら行っていきたいと考えております。

○山部会長 それでは、健康さっぽろ21の中間評価と今後の推進を踏まえて、令和元年度の食育事業計画のお話がありましたが、皆様からご質問やご意見をお願いいたします。

皆様が考えている間に、私から質問いたします。

先ほど、◎のついた取り組みについて、さらに進めていきたいとあったのですが、札幌市はほかの地域と比べて特にここがすごいのだというものがありましたら教えていただきたいと思います。

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） まず、すごいものではありませんが、昨年の推進会議でも話題にした本市の課題として、野菜摂取量がありまして、野菜摂取量を増やしたいなという思いはあります。

また、札幌市には食生活改善推進員協議会という食のボランティア団体があります。この方たちが、ボランティアとして、料理講習会や健康フェア、食生活改善展など、市民の身近なところで食に関する啓発をしてくださっているのは自慢できる一つの活動だと思います。

○山部会長 野菜の摂取量は279グラムで変化がないように思われるのですが、これはほかの地域に比べて多いのですか。

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） 北海道や全国の数値と比べますと、わずかですが、多いです。ただし、厚労省で目指すところの350グラムというのはなかなか難しいところがあります。しかし、8月の野菜摂取強化月間では、せめて300グラムのラインには乗れないかなと思いつつ取り組んでいるところです。

○山部会長 市野委員、これについて何かございませんか。

○市野委員 今月8月は野菜摂取強化月間となっております、3年ぐらい前から、札幌の卸売市場の青果の方や各区の保健センターの栄養士の協力を得まして、とにかく野菜を多くとれるレシピを考え、10区で統一したメニューの料理教室を開催します。

これは、市民対象ではなく、食生活改善推進員が対象です。たまたま、昨日、白石区で

行ったのですが、栄養士もびっくりするほどで、四百何十グラムという野菜量の内容でした。

皆さんは野菜、野菜と言うのですが、食べ方を意外と知らないのです。とれた新鮮な野菜をそのままどう料理するのだろうということです。ですから、私たち推進員としては食べ方を市民に伝える回数をふやしていくことが必須なのではないかなと思ひまして、これからのこのようなことを中心に行っていきたいと思ひます。

○山部会長 一度に四百何十グラムは多いですね。

○市野委員 お昼だけの分量でそのぐらいありましたが、料理教室ということで、使い方を勉強しましょうということでしたので、少し多目になっていました。

○山部会長 ほかにいかがでしょうか。

○太田委員 感想になってしまうのですが、市野委員には今年の春に来ていただきました。私は白石区の白石幼稚園の園長をしているのですが、そのときは、子どもたちではなく、職員向けに、食生活の改善ということで、必要な野菜の量やいろいろなものにたくさんの塩分が含まれているのだよということを教えてもらいました。

また、その講習とあわせて、ボランティアの方にお弁当をつくってきていただきまして、実際に試食させていただきました。うちの職員は結構若くて、ひとり暮らしの職員も多いものですから、話を聞くだけではなく、試食をするということでイメージが湧いたり、自分も気をつけてみようという意識につながったりしたかと思ひますので、ご報告させていただきました。

○山部会長 今後に向けて、あるいは、先ほどのことについてほかにございませんか。

○谷江委員 最後に話された働く世代への健康づくりの取り組み強化についてです。

皆さんもわかるとおり、忙し過ぎる世代ですね。最後に企業や関係機関との連携についてありましたが、そうしたものがないと運動する時間を確保することは難しいと思ひますし、食事をつくることについても、先ほどありましたが、どうしようもできないことなのではないかなと思ひます。

連携に向けて取り組むことを目指しますとなっているのですが、既に取り組まれている例はあるのでしょうか。

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） 先ほども報告させていただきましたが、大型スーパーと食育関係の企業との連携があります。こちらは、昨年、初めて行い、6回行ったのですけれども、今年は9回の予定です。スーパーの中で企業の皆さんに自社の製品を使った野菜がたっぷりとれる薄味の料理のレシピを紹介してもらい、試食を提供してもらうとともに、札幌市からもお話をするというものです。

このような不特定多数の方を対象としたもののほか、保健所では、大学の生協や企業の社員食堂に対して栄養指導に回っているというものがあります。その際には、体重をはかって、ヘルシーメニューに取り組んでみませんかという働きかけも行っております。

○山部会長 取り組む側のスーパーの成田委員、いかがですか。

○成田委員 昨年から保健所のお力添えをいただきまして、今お話にあったようなことを行っております。

私はマックスバリュ北海道という会社におりますけれども、コープさっぽろ、ラルズ、食品メーカーの6社のご協力をいただき、昨日の日曜日にも、弊社の北1条東店でやらせていただきました。

私も食育推進会議に参加させていただき、感じたことがあります。それは、今まで、札幌市の食育活動というのは、保健センターなどの限られた場所で行われていたということです。そこで、私どものようなスーパーのイートインコーナーの場所を提供し、お買い物をされているお客様を初め、より多くの市民の方にこういった活動を知っていただけないかという思いからご提案をさせていただき、昨年から取り組みをさせていただきました。

ただ、課題もあります。昨年もそうでしたが、参加される方というのは健康に対して意識の高い方が多く、本来知っていただきたい若い層の人たちになかなか啓発できていないことです。

私の啓蒙活動も悪いのですが、札幌市の保健所のホームページにも日程が出ておりますので、ここにいらっしゃる推進員の皆様も、ぜひ機会がありましたら、ご参加いただければと思います。

また、先ほど、コンビニのメニューを活用した一品についての話がありました。私どももスーパーマーケットという業態ですので、感じるどころがあります。というのは、近年、惣菜コーナーは売上げの構成比が非常に上がっているのです。これは、先ほどからもご意見が出ていたと思いますが、今、皆さんは非常にお忙しいので、なかなかお食事がつくれない、つくる時間がないということがあからずうです。

これは、お惣菜コーナーだけの話ではなく、野菜売り場、魚売り場、肉売り場にしても、半調理品といいまして、既に調理されており、カット済みだったり、温めるだけ、あるいは、煮るだけのような商品を用意し、時間のないお客様でも簡単においしく召し上がっていただけるものを提供しています。

先ほど添加物についてのご心配のお話もありましたが、商品開発の際に栄養士にも入っていただいております。今、健康を意識されているお客様が非常に多いものですから、なるべく添加物を減らしたものや健康を意識した商品を提供できればと考え、活動しております。

○山部会長 いい連携だと思っておりますので、ずっと続けていただければと思います。

ほかにご質問やご意見はいかがですか。

(「なし」と発言する者あり)

○山部会長 それでは、せっかくの機会ですので、食育推進計画に対して、あるいは、日ごろの食育に関することについてお気持ちなどをご発言いただければと思います。

高橋委員からお願いいたします。

○高橋委員 食事というのは口からとるわけですから、食育では、かむということはもちろん

重要ですけれども、栄養面が中心の話題になるかと思います。いろいろな業界がいろいろな取り組みをしているのですけれども、今、委員の間でも話がありましたように、それが広く周知されないと、なかなかうまくいきません。

今のスーパーで行われているものというのは、多分、私の家の近所でもやっていたのですが、そういうものだと気づかなかったのですね。ですから、一般の方にもそうしたものをやっているということを広く周知するような取り組みですね。これは食品そのものとは関係がないのですけれども、重要なのかなと思いました。

先ほどの資料はざっとしか見ていませんが、広報に関する部分が若干弱かったように思いますので、札幌市としては、今後、そういったことを深めていただければと思います。
○谷江委員 今回、市民委員として参加させてもらっているのですが、私としては、添加物や遺伝子組み換え食品、農薬についてすごく気になっています。それをだめとアナウンスすることは立場上できないのだなということは理解したのですが、これは農薬も使われていなくて安心という逆の方面からアナウンスすることはできると思うので、そういった取り組みをしていただければうれしいなと個人的には思います。

スーパーなどでも、先ほどお話しされたように、これは入っていないという商品があれば、喜ぶ利用者は一定数いると思うので、推し進めてほしいと思います。

熱心な方はいろいろなものに参加すると思うのですが、届いていない層もありますので、そこをどう開拓していくのがテーマになるのではないかと思います。

○成田委員 貴重なご意見をありがとうございます。

今、スーパーマーケットでは、農薬のお話がありましたが、オーガニックの野菜コーナー、または、グルテンフリー、さらには、アレルギーの問題もありますので、そういったことに関心のあるお客様のためにコーナーを設け、対応させていただいております。

実際、そういったニーズは非常に高くなってきております。そのため、私どもも含めまして、各スーパーマーケットでは、今、品ぞろえ等をふやしていますので、お客様によりわかりやすい情報を提供できるようになればいいかなと思っております。

また、今までのようにチラシで商品の価格だけを掲載するのではなく、掲載している商品、また、テーマに基づいて、料理提案ができればと考へ、紙面づくりを変えてきております。先ほどご意見もありましたが、実際にお野菜や素材を提供しても、その料理の仕方がわからない方が非常に多いというのは売り手側としても非常に感じておりますので、その方たちにどのように手軽においしく食べていただけるかについて、メディアを活用しながらやっているところですが、店内でもいろいろな情報を提供しておりますので、そちらもご活用いただければと思います。

そして、先ほどご意見もありましたが、今行っております野菜を多くうす味でという事業の周知についてです。

私どもも自社のホームページやチラシを使って告知させていただいているのですが、やはり届いていないなというのは痛感しております。本日、報道機関の方もいらっしゃると

ということでしたが、連携し、今後も盛り上げていければいいのかなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○西根委員 私たちは、札幌市から指定を受けて、食品衛生責任者資格者養成講習会を実施しております。年間に2,000人以上の方が受講されていますが、何年か後に店のオーナーになる方もおります。

その講習会では、6時間のうちの1時間は公衆衛生学です。講師の先生は、健康さっぽろ21のグラフを頻繁に使われて、栄養のバランスを初め、禁煙の話もされますが、そうした未来のオーナーの方にこの健康さっぽろ21が非常に役立っている事実はあると思っています。

○藤田委員 私は、生産者の立場といいますか、農協といいますか、つくる立場からお話をさせていただきます。

基本目標の二つ目の3番目に農業を身近に感じるという項目があります。私どもの立ち位置としては、農業を身近に感じていただくと同時に、食を身近に感じていただくことを考えておきまして、食の教育につきましては、随分以前から私どももテーマとして取り上げてまいりました。児童から高校生まで、年間に大体3,200名程度に対し、物をつくる喜び、あるいは、難しさ、そして、大事にする、食べることの大切さを教えております。

しかし、正直に言いまして、何年か前から一過性の活動になっているのではないかなという思いがございます。小学校の高学年、あるいは、高校生に対し、田植えを教えてくださいけれども、これが本当に食育につながっているのかと感じているのです。やはり、これは食事をつくる人に理解してもらわないと思いはなかなか届かないなということで、3年ほど前からお母さんと一緒にという方を優先させていただきました。

すると、やはり応募者数は減るのです。去年は、子どもが大体2,000名、親御さんが大体700名、合わせて2,700名ぐらいでした。しかし、実際に食事をつくってくれるお母さんに理解をしていただくということでやっているわけです。

今年も間もなく収穫期に入りますが、ジャガイモその他の収穫をしていただき、お母さんと一緒に料理をして食べていただきます。このとき、専門家の方のお力をいただき、いろいろなレシピを提供するという計画です。

このように子どもでも内容を変えながらやっているところです。ただ、これは欲張り過ぎかもしれませんが、成果が見えないのです。先ほど言いましたように、一過性で終わっているのではないかなという不安を絶えず持っています。

この一覧表を見ても大変なボリュームの取り組み件数があり、その活動に対して評価もしているわけです。実際にこういう活動をやることはもちろん大事なのですが、もう一歩前を出て、どう定着しているのかを見ていく必要があるのではないかなと思うのです。

というのは、ややもするとこういう活動をしましたということで終わっているのではな

いかということですが、ですから、もう少し絞って、結果、どんなことになったのかということが検証できるような取り組みになっていけばいいのかなと思います。

これは、私のところの課題でもあることなのですが、そのようなことを考えていただければありがたいと思います。

○水岡委員 私は、今回初めて参加させていただきまして、食育推進会議ではこういうことをしているのだというのを知りました。

先ほどもありましたが、保育園では0歳児からお預かりしているものですから、やはり食の安全にはすごく心がけていますし、保護者の方にも安全なものをとすることは考えております。

ただ、保護者の方の食に関しての温度差がすごく大きいのです。すごく熱心に取り組んで、また、献立でいいものがあつたらぜひ教えてほしいというふうに取り組む方もいらっしゃる、朝食を全く食べさせずに保育園に連れてくるような方もいます。このように本当にさまざまな保護者の方がいる中で保育園としてどう取り組んでいくかはすごく課題だと思っております。

先ほど農協の方がおっしゃったように、旬のものをおいしく食べる子どもにしてほしいと私自身も思っているので、保育園でも小さな菜園をつくっています。やはり、自分で育て、大きくしたものは、お家で食べないものでもしっかり食べるのです。このように、どの子どもこんなに食べるのですかというぐらいとてもよく食べてくれるのですけれども、こうした保育園の取り組みをどう家庭につなげていくかが保育園の中での課題と思っていますので、これからも家庭教育には一層努力していきたいと思っております。

○山口委員 私は、調理師養成施設という調理師の専門学校を運営しており、若い調理師を世の中に輩出するのが仕事として、食育をしっかり理解した調理師を世に送り出したいと考えております。

また、本校では定期的に親子料理教室を実施しています。このほか、最近では、お父さんと小さなお子さんの料理教室も実施してございます。微力ではございますが、このようなことで食育の推進にご協力できればと考えております。

○石井委員 私は、委員に応募するに当たってちょっとしたきっかけがあつて、広報さっぽろの4月号にみんなで育む食べる力という記事が掲載されていたのですね。私も年齢とともに食への関心が大きくなっていたので、それだけでぜひ推進会議に参加したいと思つて応募したのです。

やはり、市の広報などで食育に関する情報提供を、誌面をたくさんとれなくても、毎回コーナーをつくつて、それを市民の皆さんが保存しておけるような形を検討していただきたいと思います。

○石塚委員 私は環境アドバイザーの立場でここにおりますほか、桑園でエコカフェ・マイカップというお店を開いています。ここでは環境に関するさまざまな情報発信をしたり、啓発をしたりしているのですが、ランチを提供しています。このほか、無農薬の野菜も売

ったり生ごみの堆肥を啓発したりしています。

食育に関し、これだけたくさんの事業を各部署でされているようですが、何となく点が集まっているような感じがします。この点がつながっていくとうまくいくのではと思います。

入り口と出口ということで考えると、私は、地産地消であったり、道内または札幌市内でとれたものをたくさん食べよう、または、無農薬、低農薬で、健康に気をつけよう、そして、料理をつくるときは使い切ろう、食べ切ろう、残さず食べよう、そんなことを提供しながらランチを出します。

無農薬の野菜をたくさん売っているのですが、先日、カブを売っていたら、全然売れないのです。北海道の人はお料理でカブを使うことが余りないのですね。お漬物やみそ汁ぐらいで、どうやってつくるのとなるのですね。こうやって煮たらいいよと言うとわかってくれるのですが、買うまでいかないのです。それで、ランチでカブ料理を出したのですが、皆さんがすごく喜んで、こんなおいしい食べ物があるのだねと言って、カブが全部売れました。

このように、ちょっとしたストーリーを教えたり、見せてあげることが食べ切る、残さずということにつながるのだと思いますし、そうして食が地域とのコミュニティーをつくっていくのかと思います。ですから、こうしたたくさんある点をいかに結んでいくのが食育推進計画を目標に持っていくキーワードだと思います。

そして、食育講座ということで、私どもは、毎月、漬物講座をしているのです。使い切れなかったお野菜をどうやって使うかという、こうじ、みそ、キムチ、ピクルス、ぬか漬、何でも漬けられるのですよね。トマトでさえ、青いものも漬けられます。漬物の技術を身につけると、全てのものを使い切れ、さらには、野菜をとれるということにもつながります。そして、食品ロスにもならないのです。

このようなことを行っていますので、今申し上げたように、皆さんで底上げしていくような形になるといいなと思っています。

○市野委員 今までのお話を聞いておきますと、皆さんはいろいろなことを考えているのだとわかりました。私どもの協議会でも非常に多くの事業を日々抱えている中、幅広い世代における食育を行っています。

先ほど白石幼稚園の園長がお話ししてくださったことについてです。保健所もそうなのですが、私たちの協議会も全国組織でして、国からおりてくる事業に、最近の子どもたちはもちろん、若者世代、働き世代への食育に力を入れてくださいということがあります。

今お聞きしていると、やりたい、広めたいというご意見があったのですが、私たちがいろいろな企業にお願いに当たっても引き受けてくれるところが実はないのです。例えば、昼休みのちょっとのお時間を割けないですかとお願いをしましてもなかなかお受けしてくださいませぬ。小・中・高校のほか、企業にもお願いをしているのですが、今年も実はまだ決まっていない状況です。ですから、もしそういうお話があったときにはぜひご

協力を願いたいと思いますし、札幌市の食育をますます進めてまいりたいと思っております。

○大江（紋）委員 市P協と言われるのですが、ここには市内10区全部で12万世帯が所属しております。私たちは学校と連携して保護者との取り組みを進めているところなのですが、先ほどの推進計画の進捗状況などを見まして、給食について思うところがあります。

昨年からか、これは栄養教諭の先生が教えてくださったのですが、これまで、給食では、塩分については、7gを単純に3分の1にして計算していたのですが、それ以外の食生活を考えたら、これでは非常に多いということで、3分の1より少なくしてつくってくださっているということでした。

そのとき、子どもたちにみそ汁を提供したのですが、水だった、味がなかったみたいな感じだったのですが、栄養教諭の先生たちが何とか頑張って、だしで何とかならないか、うま味で何とかならないかといろいろ考えてやってくさっているという話を聞いて、私どもで給食試食会を開催しました。先ほどJAの藤田委員もおっしゃっていましたが、お母さん方から改善していくという取り組みができるのではと思っています。

例えば、このようなすごくおいしいレシピがたくさん配られるのですが、皆さんは、学校での配付の仕方をご存じですか。何枚あるだろうという感じなのですが、興味を持たせる配付の仕方について、学校と連携して取り組んでいきたいと思っております。

○大江（廣）委員 当連合会では、札幌市内の各区の区民センター、また、札幌市の中央卸売市場から料理教室の講師の依頼があり、依頼先の希望に応じて、日本料理、西洋料理、中国料理、すし、そば、麺などの調理講習会を無料で提供しているところでございます。

各講師は、調理法に加え、食品学や食品衛生学などの知識もあわせて伝えるよう努めております。

平成30年には、各区民センターで12回の開催実施がありました。私にも白石区民センターで一般市民の方々とお料理講習会をしたという実績がございます。中央卸売市場を含めて、平成30年は15回の実施があったところでございます。

また、今年の9月26日には、年1回、平成5年から28回ほど、札幌市民の方々に向けて、健康と食を楽しむということで、地産地消、そして、健康料理のフェスティバルを中央区のセンチュリーロイヤルホテルで行います。今年は中華が担当で、一般市民のお客様と関係者の計130名で、食と健康を楽しむお昼の会を開催するようになっております。ここでは、道産物の肉や魚、そして、先ほど出ていました野菜を使用した健康に、そして、楽しく食するような会にしていくようになっております。

食育推進ということも一般市民の方にとっては大切な情報ですので、今後ますます進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○太田委員 今、幼稚園は夏休み期間なのですが、預かり保育をしておりますので、今日の午前中も、幼稚園で子どもたちが栽培しているキュウリやピーマン、トマトなど、いろい

ろな野菜をとって、子ども用の包丁で切って、調理をして食べているという様子があったのですけれども、いろいろお話を聞かせていただくと、それも食育の一つと感じました。

野菜に関しては、子どもたちは、友達の力のほか、興味・関心から苦手な野菜を食べられるようになるというのを私たちも目の当たりにしているのです。また、何度かお話に出ています、保護者の方にもきちんと伝えていきながらしていかないだめだなということをお話の皆さんのお話を伺わせていただきながら感じました。

また、私の個人的な興味なのですが、先日、研修会の日程の中で、今、小・中・高校生のカフェインのエナジードリンクの摂取がすごく問題になっているのです。簡単にコンビニエンスストアで買えるので、普通にジュースのように飲んでしまうのですが、実際に買う子どもたちはカフェインがどのぐらい入っているのかということも知らないというお話を聞きました。ですから、こうして高校生のためのリーフレットに記載されているということはとても大事だと思いますし、保護者の方も全然知らないことだと思いますので、いろいろな方向で周知していただいたほうが良いと感じました。

○岡村委員 学校に行かれていますお子さんは学校健診を受けられていると思うのですが、学校協議会と教育委員会からの今年4月からの新しい取り組みとしまして、これは国からおりてきていたものですが、体格のチェックをするようになりました。

今までは、学校医や養護の先生により、何となくで太り過ぎているという形だったのですが、コンピューターに入力することで結果がはじき出されて、この子は肥満のレベルがきゅっと上がってしまった、何%以上の肥満だから、病院を受診しましょうと自動的に出る新しい仕組みとなりました。それにより、小児科等、かかりつけ医のところを受診しに行く子どもの数がすごく増えています。そういうお子さんというのは、どこか食べ方が間違っていることが多いのですが、そうした話をする機会が今まで以上に増えました。

やはり、何らかのバランスの悪さがあつたり、野菜を食べていなかったり、ご飯を食べ過ぎていたりほとんどです。野菜の話をする、やはり食べていないということがわかるのですが、学校、あるいは、幼稚園や保育園で食べていないのかと言うと、食べていると言うのです。では、家で食べないのかを聞くと、おいしくないから、お母さんが怒らないからという感じです。つまり、学校、幼稚園、保育園の集団の力というのはすごく強いのだと日々感じています。

このほか、保育園、幼稚園、もしくは、小学校の何のメニューが好きなのと聞くと、例えば、お野菜だったらナムルが好きと言うと、お母さん方が必死になって毎日ナムルをつくるのです。それもどうかという感じなのですけれどもね。

ただ、学校、保育園、幼稚園でできていることをお家を持って帰ってもらい、地道に少しずつふやしていく必要があるのです。大人と違って子どもは順応性が高いので、絶対食べられるからと励ますと必ず食べられるようになるというところがかなりありますので、そういうことを地道にやっていくしかないのだろうと思います。

もう一つは、自分の立場というより札幌市民からの個人的な話です。

札幌市では、大通公園などで食のイベントをたくさんやっていますよね。すごく人気があって、たくさんの市民の方が行かれているのだらうなと思います。ここでは炭水化物やたんぱく質に偏りがちなメニューが大人気みたいですが、各企業にお願いして、野菜と一緒に入れていただいたり、地産の野菜を使っていただくようなメニューも一緒に入れていただいたりすると、市民の人ももっと野菜のことに興味を持ったりしないのかと個人的には思います。

今、夏休みだからか、テレビでは北海道特集をよくやっていますけれども、ほかの地区の人に比べると、北海道はすごくうらやましがられる地区です。札幌といえどもたくさんの野菜がとれるということをもっと札幌市民として自慢に思えるような施策ができればいいのと思います。

○菊地委員 今日、初めての参加になります。

私は、今、栄養教諭という学校給食にかかわる将来の学生を育てております。北海道は、栄養教諭の配置数がほかの県に比べて非常に多いのは、北海道の特色、また、地域性などがあると思っています。今日、学んだことを食育にしっかり力をつけていけるような次の世代を育てていきたいと思って聞いておりました。

また、中間評価を見せていただきました。5年間のうちの中間評価がどのようになっているのか、また、計画の最終年に向けてはどかが足りないのかということで、例えば、○のところは◎に、△のところは○になるよう、今後、協力できたらと思っておりますし、野菜の摂取量のところについて何としても◎にと思っております。

一つ気になったのは、これから実施されるという食育男子プロジェクトについてです。ここが△になっていますよね。先ほど委員から配付するときには効果的な配付をという話がありましたが、食育男子プロジェクト様に配付するときには、これはすごいものなのだよということを伝えられ、定着されるようになるよう私も一緒に考えていけたらと思います。

今日は、どうもありがとうございました。

○山部会長 皆様、ありがとうございます。

私は、この委員をさせていただいて2期目ですけれども、最初に入りましたとき、食育推進とは何かかたい言葉だなと思って聞いていました。でも、皆様の本当にいろいろなお立場からのご意見を聞かせていただきますと、それぞれが違って、でも、札幌市民のために何かという思いがすごく伝わってまいりました。

食育というのは、先ほど石井委員もおっしゃっていたと思うのですが、簡単に言うと、食べる力ですよね。その食べる力をどうやって育てたらいいかについて、これから2年間ですけれども、栄養士会という立場でどういう形で活動していけるかということのいい示唆になったなと感じています。

これからまた会議があると思いますが、それぞれのお立場でそれぞれのご意見がどんどん積み重なって、札幌市民が、例えば、野菜が300グラムを超す、高校生がエナジード

リンクのことをわかって飲めるようになるなど、一つ一つの積み重ねができていければいいと感じて、皆様のご発言を聞かせていただきました。

本当にありがとうございます。

本日の議題はこれで終了いたしました。

6. その他

○山部会長 そのほかに皆様からご発言等はございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○山部会長 それでは、事務局からございましたらお願いします。

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） 委員の皆様方のそれぞれのお立場から、今後の食育の推進に向けての貴重なご意見を本当にありがとうございました。

食育推進は、保健所や各区の保健センターのほか、保育園や幼稚園で進めております。また、学校では、先ほどありましたように、学校給食を通じて、栄養教諭や先生方が授業の中で食育を進めていただいている部分もあります。企業の皆様やそれぞれのお立場の皆様からいただいたアイデアを今後の食育の推進に役立てていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

ここでご報告です。

1点目は、委員の交代についてです。任期は2年として委嘱状をお渡ししていますが、組織の関係や役員の改選もあると思っております。やむを得ず交代する場合には、事務局の保健所までご連絡をお願いいたします。

2点目は、次回の会議についてです。次年度の7月、8月頃を予定いたしております。先の話ではございますが、お心づもりをお願いいたします。近くなりましたら、また日程調整の連絡をさせていただきます。

○山部会長 今の件につきましては、皆様、どうぞよろしく願いいたします。

これで本日予定の議題は全て終了いたしました。

食育関係団体を代表してご出席いただきました皆様、これから一緒に計画を進めていくこととなりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、事務局にお返しします。よろしく申し上げます。

7. 閉 会

○事務局（榊原食育・健康管理担当課長） 会長を初め、委員の皆様、大変お疲れさまでございました。先ほども申しましたが、本当に貴重なご意見をいただけるいい会議であったと思っております。

本会議の会議録につきましては、後日送付させていただきますので、よろしく願いいたします。

引き続き、食育関係団体や地域、学校関係、企業と連携しながら、本計画の取り組みを

進めてまいりたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

これをもちまして、令和元年度札幌市食育推進会議を終了させていただきます。

長時間にわたりご協力いただき、ありがとうございました。

以 上